

オフィスの新たな 役割スペース

A New Role for the Office

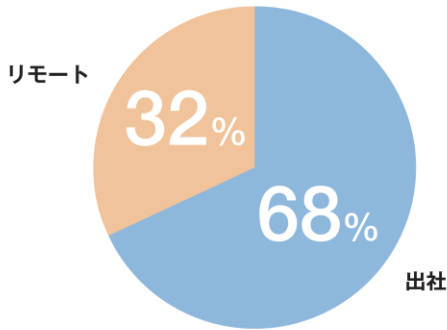
これからのオフィスにおける 「コミュニティ」の役割

「新しいワークスタイル」が優先される大きなテーマです。
この人中心の設計課題は、共通の目的のために集まった人々のつながりを復活させることです。

このコンセプトを空間的なものとして捉えたとき「これからのオフィスにおけるコミュニティの役割」はオフィス計画で見直すべき最優先事項であるといえます。



ハイブリッドワーク



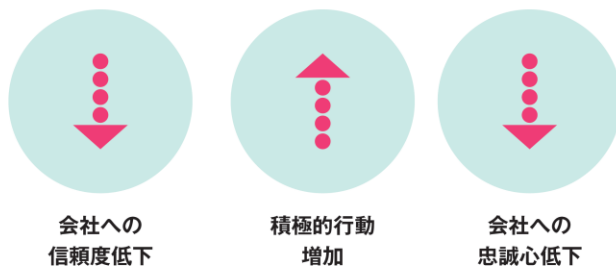
ハイブリッドワークの傾向

ハイブリッドワーク導入への動きにはある傾向が見られる。中、小都市の中小企業ほど出勤率が高く、大都市の大企業ほどハイブリッドワークやテレワーク実施率が高いです。

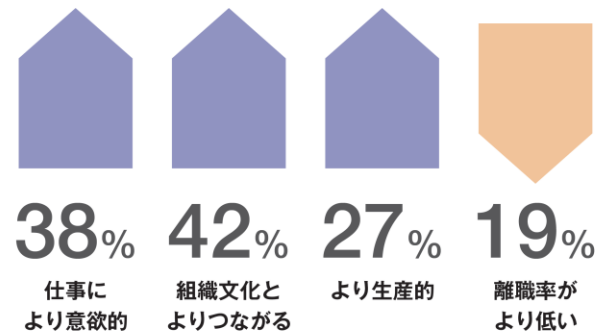
都市サイズ別



コロナによる従業員への影響



オフィスに対する愛着の重要性



※引用:2022年Steelcase社調査データ

人々が望むモノ

出勤頻度を高めるには何が必要かと尋ねたところ、オフィスで仕事をしている人の3分の1の回答は

「スペース」の改善

- 1 個人プライバシーの強化
- 2 固定席・自席
- 3 個人スペースの拡大
- 4 人間工学に基づいた個人用家具

「テクノロジー」の改善

- 1 より性能の良いデバイス
- 2 ビデオ会議ツール
- 3 双方向型こられましたディスプレイ
- 4 スペース予約システム

在宅などのリモートでは、オフィス変革に向けてのモチベーションは低くなる。しかし、41%は将来の昇進に左右するとなれば出勤をするだろうと答えている。

働き方の主な変化

全ての会議の半分以上(56%以上)がビデオ通話にシフトしています。コロナ禍前の社員の自席割合は88%。しかし、2022年この数字は12%まで減少しています。社員は選択できる裁量権を与えられつつあります。



上司、部下、同僚との
対面時間を増やし
信頼関係を育む「場」



仕事の成果と満足度を
高める働き方を
生み出す「場」

C
フォーカススペース

D
リジュネーティブ

B
ソーシャルスペース

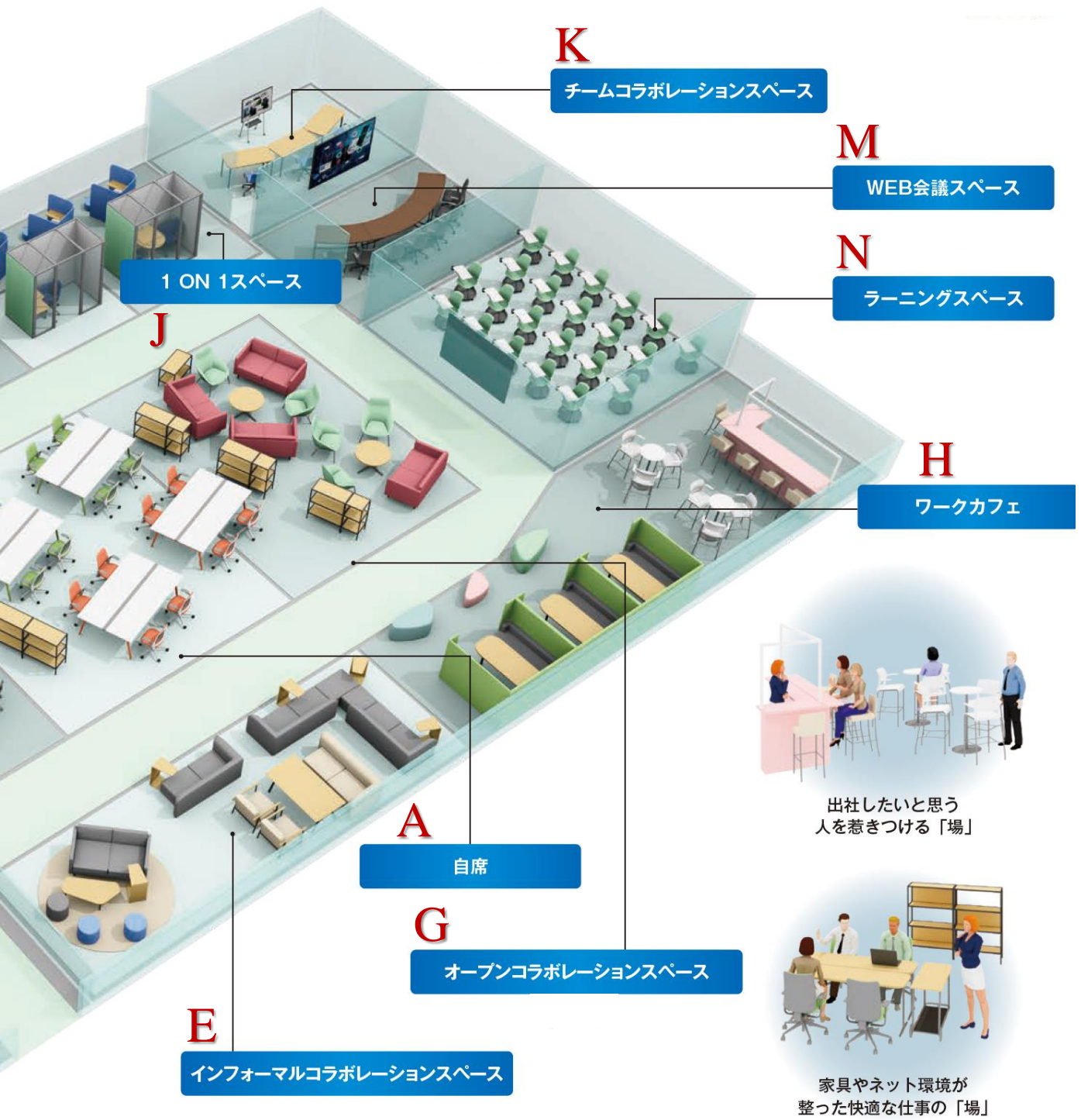
F
フォーマルコラボレーションスペース

I
アジャイルスペース

L
協創スペース



A New Role for the Office



オフィスの新たな役割

私たちが考える【オフィスの新たな役割】は、単なるワークスペースでなく、「ワーカーがつながり、イノベーションを起こし、生産性を高め、健康と幸福を維持し、企業文化や価値観を体現する場」です。多くのワーカーも、快適さや自立性だけでなく、帰属意識を醸成できるスペースなど、多様なニーズをサポートしてくれる【新たな役割】をオフィスに期待しています。

《自席》 個々が共生でき、自分の居場所もある「場」

A

個々の異なるニーズや多様な働き方に対応し、共生できるスペースです。
誰もが居場所を感じられる「ホーム」にすることで、ワーカーは
テレワークの頻度が少なくても良いと感じます。

適度な距離感を維持しつつ
一体感を感じながら仕事ができます

同じスペース・時間を共有することで
密なコミュニケーションをとれ、
イメージを共有しやすくなります



自分のスペースを実感しつつも
多様な働き方をチョイスできます

Work Lets



LexCo Collection



Flex Series



《ソーシャル》つながりを育み、帰属意識を培う「場」

B 人と人をつなぐソーシャルな空間が企業文化を育み、その有益な交流を通して目的意識や帰属意識は培われます。どこでどう働くかの選択肢をチームや個人に与えられることや、アナログ/ デジタルツールの活用がスペース稼働率改善につながります。

気軽に情報共有するスペースがあることで
つながりや帰属意識を実感できます

ソーシャルなスペースを持つことで
他チームとのコミュニケーションも取りやすくなります

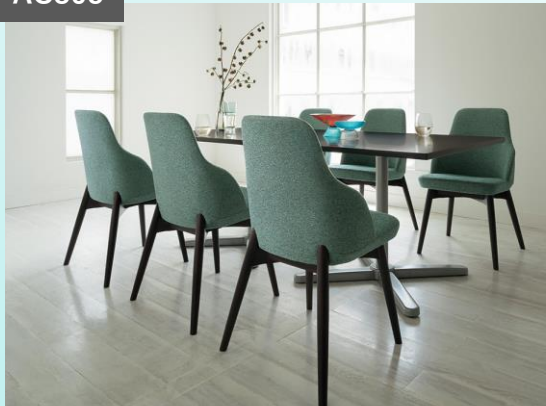


チームミーティングのフットワークが
軽くなりコンセンサスを取りやすくなります

AC302



AC305



Media;scape Lounge



PMAシリーズ



《フォーカス》 集中が途切れず、生産性を高められる「場」

C 仕事は3分毎に作業を切り替えると集中力を切らすことなく、効率を高めることができます。しかしながら、オフィスでは11分毎に邪魔（上司、同僚からの話しかけ、電話等）が入るといいうデータがあり、一度集中が途切れてしまうと、元の集中状態に戻るまで25分かかります。オフィスでの生産性を上げるためには、集中を途切れさせない空間が必要となります。



専用の電話スペースがあることで
通話内容を意識せず使うことも出来、
他の人の集中を阻害させません

一人になれるスペースは
リラックスと共に上質な集中を生みます



人の気配を感じながら集中できるスペースが
最高のパフォーマンスを生みます

Work Cabin



HANARE



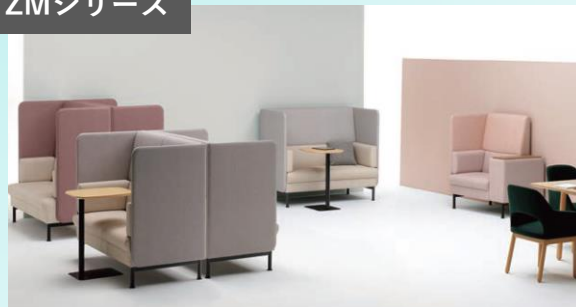
RJシリーズ



YDシリーズ



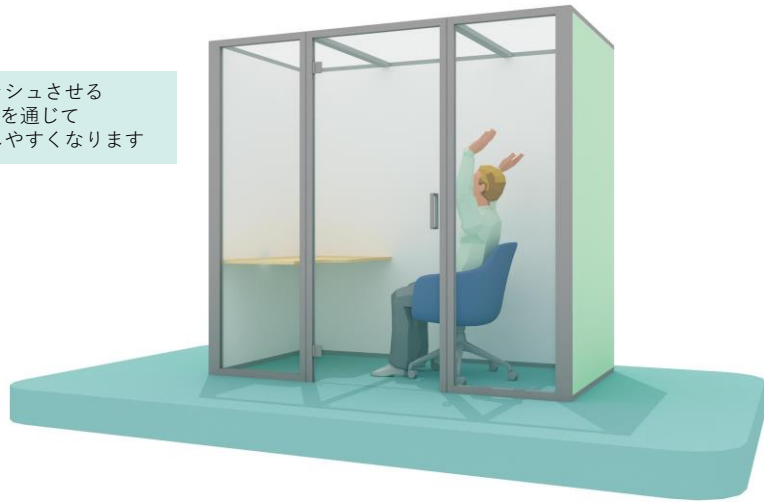
ZMシリーズ



《リジュネーティブ》 集中力を再生・回復する休息の「場」

D 人は、1日を通して途切れること無く集中力を維持することは難しいものです。休憩するための場所があれば、オンとオフを切り替えやすくなり、集中力が回復しやすく仕事の効率UPにつながります。また「顧客、上司から怒られた」「ミスをした」といった心理状況では生産性は上がりません。一度心を落ち着かせてから仕事を始めるために、個人個人が仕事のストレスから解放される時間と空間を持つことは、ウェルビーイングの基本マインドです。

意識を切り替えリフレッシュさせる
場所を持つことは1日を通じて
高いパフォーマンスを維持しやすくなります



HANARE



吸音パーティション



《インフォーマル》 カジュアルな雰囲気でのコミュニケーションを育む「場」

E 仕事の合間に、気軽にコミュニケーションをとったり、雑談やアイデア出しをしたりするためのスペースです。会議室や通常のオフィスとは異なり、カジュアルな雰囲気で誰もが自由に利用できることで、社員同士の交流が活発になり、イノベーションの創出につながる可能性があるなど、企業のワークスタイル変革に欠かせない要素のひとつです。



自由で風通しの良い仕事環境を体感できます

QPシリーズ



PMAシリーズ



Campfire



BUOY



《フォーマル》 交流や情報共有を生む仕事の「場」

F 仕事をする上で場所の縛りが無いワーカーが、事務所スペース、会議室、打合せスペースとして利用します。他のワーカーとの交流が活発なケースも多く、自身の仕事領域では知り得ない情報の共有や、有意義な会話を通して新たなアイデアが生まれるなど、可能性に満ちた魅力ある空間です。

価値観や視点が異なる交流が
新しいイノベーションを生みます



スペースが存在することが
交流を促進させることを実感します

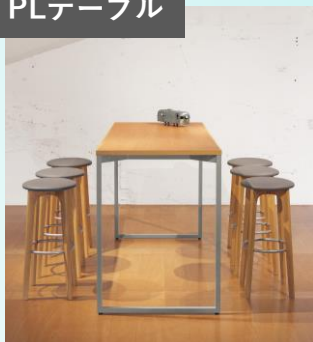
Cubb Table



ASテーブル



PLテーブル



AC524



AC520



《オープンラボ》 人間らしさを主軸にしたコミュニティ形成の「場」

G これからの主軸は「効率性」ではなく「人間らしさ」。
人間重視の活気あふれるコミュニティ形成こそが、豊かな発想をもたらし、
新たな視点からアイデアを生み出す源となります。



カジュアルなコミュニケーションは
より自由な発想のヒントになります

AC411



AC413

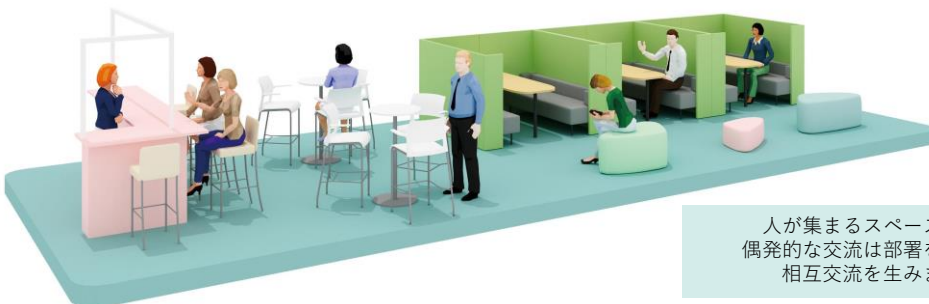


QAシリーズ



《ワークカフェ》 人・仕事・組織をつなげる「場」

H 人と仕事、人と組織をつなぐダイナミックな空間。旧態依然とした企業の
食堂やカフェテリア等の不動産を、「交流」「コラボレーション」「集中」
「イノベーション」がサポートできる「目的地」に変換させます。



人が集まるスペースでの
偶発的な交流は部署を超えた
相互交流を生みます

アイデアやエネルギーのチャージが
効率の良い結果を生みます

YDシリーズ



REカウンター



《アジャイル》 日々の変化に対応し、チームで成果を出す「場」

I タスク内容に応じて、スペースを柔軟に変更しながら、成果を出す「アジャイル」な働き方をサポートするスペースです。コミュニケーションを活発にして、目標達成に必要な調整や改善を迅速に行うことができます。

ソロ、ペア、チームなど多様なワークに柔軟な働き方ができます



Flex Collection



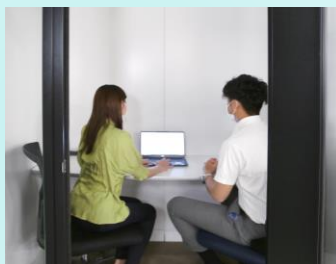
《1 on 1》 能力を引き出す、部下育成の「場」

J 部下の成長を促進することを目的としたスペースです。マンツーマンで寄り添いながら、部下の能力を引き出す「部下育成のための時間」を創出します。

プライバシーが確保され、きめ細やかな対応が可能です



WorkCabin



《チームコラボ》 生成型ワークが要のチームを支える「場」

K プレゼンやプレストなど、何かを生み出す生成型ワークが要になるチームでのハイブリッドコラボレーションを支えるスペースです。チームメンバーの連携が強化され、より効果的なプロジェクト遂行やイノベーション創出につながります。

お互いに力を合わせて取り組めるハイブリッド環境がより効果的なパフォーマンスを生み出します



Surface Hub2



《協創スペース》 フラットな関係性で、交流・創造する「場」

L フラットで公平な関係性を保ちながら、交流・創造するスペースです。創出したアイデアを可視化させるなど、コラボレーションを活発化します。



立場を意識させないフラットな交流が活発なアイデアの創出を促します

PLシリーズ



PLテーブル



《WEB会議》人々を集わせる多彩なリアルとリモート参加者を円に繋ぐ「場」

M 横に向きを変えたり、円弧を描いて座るなど全員が公平にカメラの方を向くようにすると両端の人も無理なく全員をカメラに収められ、お互いに目線を合わせ、細かな表情も読み取ることで対話がスムーズに行えます。



ツールに左右されない安定した人間主体のWEB環境が確かな結果に導きます

Ocular Table



《ラーニング》個々の組織の両方の能力を開発する「場」

N スペースを多目的利用にすることで、スペース稼働率を上げると同時に、チームが互いのアイデアを試し、発展させる機会を増やすことにつながります。



個々の能力を引き出すことが組織の総合力UPにつながります

Node Chair



www.kurogane-kks.co.jp

人と環境にやさしい空間創造 ——
株式会社くろがね工作所

東京 〒105-0014 東京都港区芝 1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL.03-5439-9111

札幌 〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西7丁目3 北一条第一生命ビル
TEL.011-281-2373

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 御幸ビル
TEL.052-253-6985

大阪 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビル
TEL.06-6538-1012

福岡 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金 1 丁目 2-21 W ビルディング渡辺通
TEL. 092-523-1440